

基本計画書

基本計画										
事項		記入欄						備考		
計画の区分		研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者		ガッコウホウジン ショウインガクエン 学校法人樟蔭学園								
フリガナ大学の名称		オオサカショウインジョシダイガクダイガクイン 大阪樟蔭女子大学大学院 (Osaka Shoin Women's University, Graduate School)								
大学本部の位置		大阪府東大阪市菱屋西四丁目2番26号								
大学の目的		大阪樟蔭女子大学大学院は、大阪樟蔭女子大学の教育理念に則り、学部教育の基礎の上に、広い視野に立って精深な学識を教授し、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うと共に、女性としての特性と人格を陶冶し、もって文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的		化粧ファッション学専攻は、身体と身体美、及び身体によそおいに関する高度な知識技能を養い、かつ現代社会における身体の在り様の含みもつ諸課題について深く考究させることを通して、生活の質の向上と産業の発展、文化芸術の深化に資する人材の養成を目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	人間科学研究科 [Graduate school of Human Science]	年	人	年次人	人	修士 (化粧ファッション学)	年 月 第 年次	大阪府東大阪市菱屋西4丁目2番26号		
	化粧ファッション学専攻 [Division in Beauty and Fashion Studies]	2	10	—	20		平成25年4月 第1年次			
	計		10	—	20					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		平成25年4月 学芸学部(リリアン)学科の学生募集停止 (△60) (平成24年4月届出) 平成25年4月 心理学部(リリアン)心理学学科の学生募集停止 (△30) (平成24年4月届出) 平成25年4月 心理学部発達教育心理学科→心理学科に名称変更 (平成24年4月届出) 平成25年4月 学芸学部ライフプランニング学科[定員減] (△20名) (平成24年4月届出予定)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計					
	化粧ファッション学専攻	11科目	26科目	0科目	37科目	34単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設	人間科学研究科	化粧ファッション学専攻	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	8 (8)
		計		7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	8 (8)
		既設分	人間科学研究科	臨床心理学専攻	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)
	人間栄養学専攻		5 (5)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	
	計		12 (12)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	2 (2)	
合計			19 (19)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	10 (10)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		75 (75)		45 (45)		120 (120)			
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	図書館専門職員		4 (4)		11 (11)		15 (15)			
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	計		79 (79)		56 (56)		135 (135)			

校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		短期大学部と共用				
	校 舎 敷 地		24,246.00㎡		20,636.91㎡		0.00㎡		44,882.91㎡						
	運 動 場 用 地		4,187.00㎡		13,909.30㎡		0.00㎡		18,096.30㎡						
	小 計		28,433.00㎡		34,546.21㎡		0.00㎡		62,979.21㎡						
	そ の 他		50,744.94㎡		21,152.36㎡		0.00㎡		71,897.30㎡						
	合 計		79,177.94㎡		55,698.57㎡		0.00㎡		134,876.51㎡						
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		短期大学部と共用				
			39,865.77㎡ (39,865.77㎡)		19,805.55㎡ (19,805.55㎡)		0.00㎡ (0.00㎡)		59,671.32㎡ (59,671.32㎡)						
教室等		講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体 短期大学部と共用			
		53室		42室		59室		7室 (補助職員 0人)		2室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室				新設学部等の名称				室 数							
				化粧ファッション学専攻				9 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点		視聴覚資料 点		機械・器具 点		標本 点		大学全体での 共用分 その他共用図書(24.5/1) 349,046〔80,180〕 その他共用雑誌(24.5/1) 3,101〔680〕
	化粧ファッション学専攻		6,232〔1,003〕 (6,098〔981〕)		148〔37〕 (148〔37〕)		2〔2〕 (2〔2〕)		242 (228)		300 (295)		0 (0)		
	計		6,232〔1,003〕 (6,098〔981〕)		148〔37〕 (148〔37〕)		2〔2〕 (2〔2〕)		242 (228)		300 (295)		0 (0)		
図書館			面積			閲覧座席数			収 納 可 能 冊 数			大学全体 短期大学部と共用			
			6,571 ㎡			576			470,000						
体育館			面積			体育館以外のスポーツ施設の概要						短期大学部と共用			
			2,752㎡			テニスコート 9 面									
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出専攻全体 ※ 共同研究費は 大学全体				
		教員1人当り研究費等			300千円	300千円	― 千円	― 千円	― 千円	― 千円					
		共 同 研 究 費 等			5,500千円	5,500千円	― 千円	― 千円	― 千円	― 千円					
		図 書 購 入 費		3,000千円	3,000千円	3,000千円	― 千円	― 千円	― 千円	― 千円					
		設 備 購 入 費		1,000千円	500千円	500千円	― 千円	― 千円	― 千円	― 千円					
		学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次						
				1,020千円	740千円	― 千円	― 千円	― 千円	― 千円						
学生納付金以外の維持方法の概要				私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等											
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称		大阪樟蔭女子大学										英米文学科:平成22年度より学生募集停止。 食物栄養学科:平成22年度より健康栄養学科に名称変更 心理学科:平成21年度より学生募集停止。 児童学科:平成21年度より学生募集停止。		
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地					
	人間科学研究科		年	人	年次人	人		倍							
	臨床心理学専攻		2	8	―	16	修士 (臨床心理学)	0.56	平成16	奈良県香芝市関屋 958番地					
	人間栄養学専攻		2	8	―	16	修士 (人間栄養学)	0.49	平成17	大阪府東大阪市菱屋西4 丁目2番26号					
	学芸学部									大阪府東大阪市 菱屋西4丁目2番 26号					
	国文学科		4	90	―	360	学士 (国文学)	0.77	昭和24						
	英米文学科		4	―	―	70	学士 (英米文学)	―	昭和24						
	国際英語学科		4	70	―	210	学士 (国際英語学)	0.47	平成22						
	健康(食物)栄養学科		4	120	―	480	学士 (食物栄養学)	1.07	昭和24						
	被服学科		4	120	―	420	学士 (被服学)	1.13	昭和24						
	インテリアデザイン学科		4	60	―	270	学士 (インテリアデザイン)	0.57	平成16						
	ライフプランニング学科		4	60	―	270	学士 (ライフプランニング)	0.51	平成19						
	人間科学部									奈良県香芝市関屋 958番地					
	心理学科		4	―	―	―	学士 (心理学)	―	平成13						
	児童学科		4	―	―	―	学士 (児童学)	―	平成13						
	心理学部									奈良県香芝市関 屋					
	臨床心理学科		4	50	―	200	学士 (心理学)	0.83	平成21	958番地					
	発達教育心理学科		4	30	―	120	学士 (心理学)	0.45	平成21						
	ヒューマン心理学科		4	30	―	120	学士 (心理学)	0.51	平成21						
	児童学部									奈良県香芝市関 屋					
	児童学科		4	150	―	600	学士 (児童学)	0.80	平成21	958番地					

大 学 の 名 称		大阪樟蔭女子大学短期大学部							キャリアデザイン学科;平成24年度より学生募集停止。	
学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所 在 地
キャリアデザイン学科		年	人	年次人	人	短期大学士 (キャリアデザイン)	倍	年		奈良県香芝市関屋 958番地
		2	—	—	40		—	平成21		
附属施設の概要		大阪樟蔭女子大学大学院人間科学研究科臨床心理学専攻附属カウンセリングセンター 所在地：奈良県香芝市関屋958番地 設置年月日：平成13年11月1日 規模等：面積656.25㎡ 部屋数：面接室、プレイルーム、グループ面接室、多目的室、待合室、更衣室、事務室 倉庫、トイレ等								
		大阪樟蔭女子大学附属幼稚園 所在地：大阪府東大阪市菱屋西三丁目3番7号 設置年月日：昭和26年4月8日 規模等：延床面積1,166.40㎡ 部屋数：保育室、遊戯室、図書室、職員室兼保健室、台所兼園務員室、会議室、応接室 保護者室、実習生控室、更衣室等								
		樟蔭寮 所在地：大阪府東大阪市菱屋西二丁目4番12号 設置年月日：大正15年 規模等：延床面積2,709.17㎡ 部屋数：客室50室、管理人室、自炊室、アイロン室及びミシン室、ピアノ室 休養室、予備室、事務室及び応接室、その他（トイレ、浴室、保健室等）								
		大阪樟蔭女子大学図書館（小阪図書館・関屋図書館） 所在地：（小阪図書館）大阪府東大阪市菱屋西四丁目2番26号 設置年月日：大正6年4月1日 規模等：延床面積4,077.61㎡ 座席数:286席(閲覧室)、その他:視聴覚室、資料室、演習室、共同研究室、自習室、書庫、事務室等 所在地：（関屋図書館）奈良県香芝市関屋958番地 設置年月日：平成13年4月1日 規模等：延床面積2,850.31㎡ 座席数:290席(閲覧室)、その他:シアター、AVコーナー、共同研究室、演習室、書庫、事務室等								

（注）

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校に定める学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(人間科学研究科 化粧ファッション学専攻)															
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
共通科目	人間科学研究方法論	1前	2			○			1					兼2 オムニバス	
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—			1					2	
基幹科目	化粧ファッション学特殊研究1(化粧ファッション学原論)	1前	2			○			1					合同授業	
	化粧ファッション学特殊研究2(化粧ファッション学の現在)	1後	2			○			7	1	1				
	小計 (2科目)	—	4	0	0	—			7	1	1				
演習科目	ファッション 学科目群	ファッションと科学演習1	1・2前		2			○		1					兼1 兼1 兼1 集中 兼1 兼1 兼1
		ファッションと科学演習2	1・2後		2			○		1					
		ファッションと技術演習	1・2前		2			○			1				
		ファッションと美学演習	1・2後		2			○		1					
	化粧デ ザイン学 科目群	化粧デザインと科学演習1	1・2前		2			○		1					
		化粧デザインと科学演習2	1・2後		2			○		1					
		化粧デザインと技術演習	1・2前		2			○							
		化粧デザインと美学演習	1・2後		2			○							
		化粧デザインと医学演習	1・2前		2			○		1					
	身体表 象学科目 群	身体表象と心理演習	1・2後		2			○				1			
		身体表象と解剖学演習	1・2前		2			○							
		身体表象と社会演習	1・2後		2			○		1					
		身体表象と福祉演習	1・2前		2			○							
	関係科 目群	ファッションビジネス論	1・2前		2			○		1					
		ビューティビジネス論	1・2後		2			○		1					
		非営利ビジネス論	1・2前		2			○							
		ボランティア活動論	1・2後		2			○							
	小計 (17科目)		—	0	34	0	—			7	1	1			
特論科目	化粧セラビー特論	2前		2			○							兼1	
	キュレーション特論	2前		2			○							兼1	
	保存修復復元特論	2前		2			○							兼2 集中	
	メイクアップ特論	2前		2			○							兼1 集中	
	ヘアデザイン特論	2後		2			○							兼1	
	ファッション特論	2後		2			○		1						
	パフォーマンス特論	2後		2			○							兼1 集中	
	デジタルデザイン特論	2後		2			○							兼1	
小計 (8科目)		—	0	16	0	—			1					兼8	
集中演習 科目	ファッション学方法論1	2通		2				○		1					
	ファッション学方法論2	2通		2				○		1					
	ファッション学方法論3	2通		2				○			1				
	化粧デザイン学方法論1	2通		2				○		1					
	化粧デザイン学方法論2	2通		2				○		1					
	化粧デザイン学方法論3	2通		2				○				1			
	身体表象学方法論1	2通		2				○		1					
	身体表象学方法論2	2通		2				○		1					
	ビジネス方法論	2通		2				○		1					
小計 (9科目)		—	0	18	0	—			7	1	1				
(研究指導)		2	—	—	—				7	1					
小計 (0科目)		—	0	0	0	—									
合計 (37科目)		—	6	68	0	—			7	1	1			兼13	
学位又は称号		修士(化粧ファッション学)			学位又は学科の分野				家政関係						
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法								授業期間等							
①共通および基幹科目を3科目6単位必修、②演習科目を4科目群にわたり8科目16単位選択必修、③特論科目を8科目のうち2科目4単位選択必修、④集中演習科目を1科目2単位選択必修し、合せて34単位以上を修得のうえ、修士論文または課題研究レポートを提出し、その審査に合格することを修了要件とする。								1 学年の学期区分				2 学期			
								1 学期の授業期間				1 5 週			
								1 時限の授業時間				9 0 分			

教 育 課 程 等 の 概 要

（教養教育）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通 科目 Ⅰ 基礎	アカデミック・スキルズA	1前	1				○							兼10
	アカデミック・スキルズB	1後	1				○							兼10
	樟蔭の窓	1前		2		○			1					
	小計（3科目）	—	2	2	0	—			1	0	0	0	0	兼13
共通 基礎 科目 Ⅱ （外国語）	Communicative English A	1前	1				○							兼8
	Communicative English B	1後	1				○							兼8
	Communicative English C	2前	1				○							兼9
	Communicative English D	2後	1				○							兼9
	Comprehensive English A	1前	1				○							兼10
	Comprehensive English B	1後	1				○							兼10
	Comprehensive English C	2前	1				○							兼9
	Comprehensive English D	2後	1				○							兼9
	Elective English A	3・4前		1			○							兼1
	Elective English B	3・4後		1			○							兼1
	Elective English C	3・4前		1			○							兼1
	Elective English D	3・4後		1			○							兼1
	海外外国語演習A	1・2・3・4集		2			○							兼1
	海外外国語演習B	1・2・3・4集		2			○							兼1
	海外外国語演習C	1・2・3・4集		1			○							兼1
	異文化演習	1・2・3・4集		1			○							兼1
	ドイツ語Ⅰ	1・2・3・4前		1			○							兼2
	ドイツ語Ⅱ	1・2・3・4後		1			○							兼1
	フランス語Ⅰ	1・2・3・4前		1			○							兼1
	フランス語Ⅱ	1・2・3・4後		1			○							兼1
	中国語Ⅰ	1・2・3・4前		1			○							兼2
	中国語Ⅱ	1・2・3・4後		1			○							兼1
	朝鮮語Ⅰ	1・2・3・4前		1			○							兼2
	朝鮮語Ⅱ	1・2・3・4後		1			○							兼1
	小計（24科目）	—	8	18	0	—			0	0	0	0	0	兼39
（共通 基礎 科目 Ⅲ）	情報と人間	1前・後	2			○				1				兼2
	電子社会とメディア	1・2・3・4前・後		2		○				1				
	情報処理基礎A	1前	1					○						兼5
	情報処理基礎B	1後	1					○						兼5
	情報処理A	2前		1				○		1				
	情報処理B	2後		1				○		1				
	小計（6科目）	—	4	4	0	—			0	1	0	0	0	兼7
人間 と 健康	現代社会と心の健康	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	女性と健康	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	食育－食と健康－	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	運動と健康A	1前		1				○						兼7
	運動と健康B	1後		1				○						兼7
	スポーツ実習A	2・3・4前		1				○						兼1
	スポーツ実習B	2・3・4後		1				○						兼1
	小計（7科目）	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	兼9

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
探人 求 間 存 在 の	哲学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	倫理学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	宗教学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	自己の探求と発見	1・2・3・4後		2		○								兼1
	小計（4科目）	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	兼3
人 間 の 文 化 と 歴 史	言語学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	文学	1・2・3・4前・後		2		○								兼2
	女性学・女性史	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	文化人類学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	美術史	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	歴史学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	小計（6科目）	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼6
人 間 と 社 会	日本国憲法	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	法律学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	政治学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	経済学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	社会学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	マスコミ論	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	ボランティア活動論	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	小計（7科目）	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	兼6
人 間 と 自 然	自然の原理	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	生命科学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	数学的思考法	1・2・3・4前・後		2		○				1				
	科学技術論	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	宇宙の始まりと地球の未来	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	小計（5科目）	—	0	10	0	—			0	1	0	0	0	兼3
総 合 科 目	現代企業論	1・2・3・4前		2		○								兼1
	人権と福祉	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	環境問題	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	国際社会と平和	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
	芸術と鑑賞	1・2・3・4後		2		○								兼1
	地域と子育て支援	1・2通		1			○							兼1
	子育て支援実践	2・3・4通		2			○							兼1
	小計（7科目）	—	0	13	0	—			0	0	0	0	0	兼6
合計（67科目）		—	14	91	0	—			1	1	0	0	0	兼87
学位又は称号					学位又は学科の分野									
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
必修科目の単位を含み、教養教育科目から32単位以上、専攻科目から62単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。							1学年の学期区分				2期			
							1学期の授業期間				15週			
							1時限の授業時間				90分			

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(学芸学部 被服学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
(学 科 基 礎 科 目)	基礎演習A	1前		1			○		1	1	2			兼1 兼1
	基礎演習B	1後		1			○		1	1	2			
	基礎演習	1通		2			○		1		1			
	服飾文化論	1前		2		○			1					
	色彩論	1後		2		○								
	デザイン論	2前		2		○								
	化粧文化論	2後		2		○			1					
	小計(7科目)	—		12		—			4	1	3			兼1
基 礎 科 目 (専 攻 基 礎 科 目)	服飾基礎科学	1前		2		○			1					兼1
	被服学概論	1前		2		○			1					
	被服構成学Ⅰ	1前		2		○				1				
	被服材料学A(繊維学)	1後		2		○			1					
	被服整理学A(洗浄)	1後		2		○			1					
	生活基礎化学	1後		2		○								兼1 兼1
	生活基礎物理	1前		2		○								
	化粧品概論	1前		2		○			1					
	身体とジェンダー	2前		2		○					1			
	現代モード論	1後		2		○			1					
	被服学基礎演習	2後		1			○		4	1				
	化粧品基礎演習	2後		1			○		3		2			
	装いと化粧の心理学	2前		2		○					1			
小計(13科目)	—		24		—			7	1	2			兼2	
学 科 基 幹 科 目 (講 義 科 目)	被服構成学Ⅱ	1後		2		○				1				兼1
	人間理解の心理学	1前		2		○					1			兼1 兼1 兼1
	メイクデザイン論	1前		2		○			1		1			
	美と衛生学A	1前		2		○								
	美と衛生学B	1後		2		○								兼1 兼1 兼1
	美と健康Ⅰ	1前		2		○			1					
	美と健康Ⅱ	1後		2		○			1					
	環境とデザイン設計	1後		2		○								兼1
	人体の美と科学Ⅰ	1後		2		○			1					
	人体の美と科学Ⅱ	2前		2		○			1					
	服飾デザイン	2前		2		○			1					兼1 兼1 兼1
	被服衛生学	2後		2		○								
	被服材料学B(材料学)	2前		2		○			1					
	ファッション企画	2後		2		○								兼1 兼1 兼1
	ファッション商品学	2前		2		○								
	ファッションの歴史A	2前		2		○			1					
	ファッションの歴史B	2後		2		○			1					兼1 兼1 兼1
	消費者行動論	2後		2		○								
	ファッション製品消費科学	2後		2		○								
	デザイン史	2前		2		○								兼1 兼1 兼1
	化粧の歴史A	2前		2		○					1			
	化粧の歴史B	2後		2		○					1			
	美容福祉論	2後		2		○								兼1 兼1 兼1
	化粧の心理学と美容福祉論	2通		4		○					1			
	美の法規	2前		2		○					1			
	美粧と社会	2前		2		○					1			兼1
	顔学概論	2前		2		○			1					
	香粧品の化学	2集		2		○								
	表現の技術Ⅰ	2前		2		○					1			兼1
	表現の技術Ⅱ	2後		2		○					1			
	表現の技術Ⅲ	3前		2		○					1			
	表現の技術Ⅳ	3後		2		○					1			兼1
	ファッションマーケティング論	3前		2		○								
	服飾美学	3前		2		○			1					
	身体美学	3後		2		○			1					兼11
	染色学	3前		2		○			1					
小計(36科目)	—		74		—			7	1	3			兼11	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
(学科 演習基 幹科目)	デザイン基礎演習	2後		1			○		1					
	コンピュータデザインA	2前		1			○		1					
	コンピュータデザインB	2後		1			○		1					
	カラーコーディネート演習	2前		1			○		1					
	小計(4科目)	—		4		—			1					
学科 基幹科目 (実験・ 実習科目)	被服構成学実習Ⅰ	1後		1				○		1				兼1
	被服構成学実習Ⅱ	2前		1				○		1				
	被服構成学実習Ⅲ	2後		1				○		1				
	被服材料学実験A	2前		1				○	1					
	被服材料学実験B	2後		1				○	1					
	被服整理学実験A(基礎)	2前		1				○	1					
	被服整理学実験B(応用)	2後		1				○	1					
	ファッションドローイング	2前		1				○						兼1
	衣生活造形実習(和裁)	2前		1				○						兼1
	人体の構造と美(デッサンA)	1後		1				○						兼1
	表情と美(デッサンB)	1前		1				○						兼1
	顔・スカルプチュア	2集		1				○						兼1
	ネイルアート実習ⅠA	2前		1				○						兼1
	ネイルアート実習ⅠB	2後		1				○						兼1
	ネイルアート実習Ⅰ	2通		2				○						兼1
	メイクデザイン実習ⅠA	1後		1				○	1		1			
	メイクデザイン実習ⅠB	2前		1				○	1		1			
	メイクデザイン実習Ⅰ	2通		2				○	1					
	メイクデザイン実習ⅡA	2後		1				○	1					兼1
	メイクデザイン実習ⅡB	3集		1				○	1					兼2
	メイクデザイン実習ⅡC	3集		1				○						兼2
	デザイン表現基礎Ⅰ	1通		4				○	1		1			
	デザイン表現基礎Ⅱ	2前		4				○	1		1			
	デザイン表現基礎Ⅲ	2後		2							1			
小計(24科目)	—		33			—			4	1	1			兼12
学科 発展科目 (講義 科目)	化粧文化特論A	2後		2			○				1			
	化粧文化特論B	3前		2			○				1			
	エステ論	3前		2			○							兼1
	ホスピタリティー論	3前		2			○							兼1
	美の経営論	3後		2			○							兼1
	香りの美学(フレグランス概論)	3前		2			○							兼1
	染織史	3後		2			○		1					
	ディスプレイデザイン	3休		2			○							
	舞台衣装論	3前		2			○							兼1
	ビジュアルコミュニケーション論	3前		2			○				1			兼2
	日本の伝統美	3前		2			○							兼1
	被服学特論A	3集		2			○		1					
	被服学特論B	3集		2			○		1					
	ポジティブメイク論	3前		2			○							兼1
	被服整理学B(消費と加工)	2前		2			○		1					
	アパレルテクノロジー	3休		2			○							
	社会調査法	3前・後		2			○		1		1			
	人間関係論	3前		2			○				1			
小計(18科目)	—		36			—			3	1	2			兼7

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
学科 発展 科目 （実験・ 実習科目）	ファッション造形A	2前		1				○							兼1
	ファッション造形B	2前		1				○							兼1
	ファッション造形C	2後		1				○							兼1
	ファッション造形D	2後		1				○							兼1
	ファッション造形E	2休		1				○							
	応用デザインⅠ	2通		4				○	1		1				
	応用デザインⅡ	3前		4				○	1		1				
	応用デザインⅢ	3後		4				○	1		1				
	アパレル生産実習Ⅰ	3前		1				○							兼1
	アパレル生産実習Ⅱ	3後		1				○							兼1
	染色学実験	3後		1				○	1						
	繊維学実験A	3前		1				○	1						
	繊維学実験B	3後		1				○	1						
	ファッションインターンシップ	3集		1				○	2						
	トータルファッション演習Ⅰ	3前		3				○			1				兼2
	トータルファッション演習Ⅱ	3後		2				○							兼1
	エステ実習	3後		1				○							兼1
	ヘアスタイリング実習	3前		1				○			1				兼1
	ドレーピングⅠ	3前		1				○							兼1
	ドレーピングⅡ	3後		1				○							兼1
	染織実習（染Ⅰ）	3休		1				○							
	染織実習（染Ⅱ）	3休		1				○							
	染織実習（織Ⅰ）	3前		1				○							兼1
	染織実習（織Ⅱ）	3後		1				○							兼1
	人物撮影法	3集		1				○							兼1
小計(25科目)	—			37			—		4	0	1				兼12
学科 発展 科目 （演習科目）	オートクチュール特別演習	2休		1				○							
	ビジュアルデザイン演習	3前		1				○	1						
	アパレルCAD演習Ⅰ	3前		1				○							兼1
	アパレルCAD演習Ⅱ	3後		1				○							兼1
	ファッションミュージアムスタディ	4集		1				○	1						
	演習ⅠA	3前		1				○	6	1	2				
	演習ⅠB	3後		1				○	6	1	2				
	演習Ⅰ	3通		2				○	1						
	演習ⅡA	4前	1					○	7	1	2				
	演習ⅡB	4後	1					○	7	1	2				
	卒業論文・卒業制作	4	6						7	1	2				
	小計(11科目)	—	8	9			—		7	1	2				兼1
教職 関係 科目	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	2後		2			○								兼1
	住居学(製図を含む。)	2前		2			○								兼1
	家庭電気・機械(情報処理を含む。)	2前		2			○								兼1
	保育学(家庭看護を含む。)	3前		2			○								兼1
	食物学(栄養学、食品学を含む。)	3前		2			○								兼1
	小児保健学実習	3前		1											兼1
	〔調理学実習〕	4前		2											兼1
小計(7科目)	—		13			—		0	0	0				兼7	
合計（145科目）		—	8	242	0	—			7	2	3				兼45
学位又は称号		学士（被服学）		学位又は学科の分野				家政学							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
必修科目の単位を含み、教養教育科目から32単位以上、専攻科目から62単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。))についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学研究科化粧ファッション学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	人間科学研究方法論	本科目においては、人間科学研究科の3つの専攻、すなわち、①現代社会における心の問題に関する教育研究を行う臨床心理学専攻、②現代社会における食の産業と健康に関する教育研究を行う人間栄養学専攻、および、③現代社会における身体と身体美、および身体によそおいに関する教育研究を行う化粧ファッション学専攻の教員が、各専攻に固有の学問的方法論とこれまでの成果、ならびに最新の知見を検証することによって、研究科共通の目的「生活の質の向上」に資する人材養成の機能を促進させる。	オムニバス授業
基幹 科目	化粧ファッション学特殊研究1(化粧ファッション学原論)	この科目においては、「身体と身体美、および身体のよそおい」についての総合的な学問である「化粧ファッション学」の意義、対象とする事象、地理的歴史的広がり、隣接する専門領域との関係、文化芸術活動や「美の産業」との関連など、本専攻がその研究教育の出発点において教員と学生との間で相互に確認しなければならない諸課題、諸テーマについて議論を積み重ね、「化粧ファッション学」の学問としての深化を図ることを目的とする。	
	化粧ファッション学特殊研究2(化粧ファッション学の現在)	この科目においては、現代社会において「化粧ファッション学」がなぜ必要であるのか、また「化粧ファッション学」の名称のもとにいかなる研究が可能であるか等について、専攻を構成する3つの分野（ファッション学、化粧デザイン学、身体表象学）の間での方法論上の差異を安易に融解させることなく、相互批判、相互発展のための議論を組織する。授業の形式は、専攻の全教員、全学生が参加する合同授業の形態を採用する。	合同授業
演習 科目	ファッションと科学演習1	この科目においては、繊維や糸、布の構造や性質など、おもに衣服材料学などの分野における基本的な知識を共有させるとともに、伝統的な繊維獲得の方法、「新素材」の開発、特定分野の必要から要請される特殊素材探究の動向、環境負荷の軽減に貢献する技術の開発などについて研究させる。	
	ファッションと科学演習2	この科目においては、衣の消費科学とも呼べる衣服整理学の分野における基本的な知識を共有させるとともに、たとえば現在、世界的な規模で問題になりつつある洗浄排水を原因とする環境問題（富栄養化現象）、不断に供給され続ける衣料品の堆積とリサイクルの問題などについての最新の研究動向、研究成果について考究させる。	
	ファッションと技術演習	この科目においては、おもに衣服構成学の分野における基本的な知識を共有させるとともに、実際の作品制作を通して衣服のデザインから素材選定、パターン作成、縫製、仕上げ、着装までの諸工程を具体的に理解させる。加えて、近・現代の衣服制作の過程を技術面から明らかにすることで、新しい衣服制作の可能性を探究させる。	
	ファッションと美学演習	人間にとって衣服とは何か。世界各地の人々が育んできた衣服デザインについて服飾史や民俗学における基礎的知識を共有させるとともに、美術館収蔵品や現代作家の作品を素材に服飾史・服飾美学の視点から、人々がいつ、どのような衣服を、なぜ好んできたのかを、素材、かたち、色、トレンドなどの分析軸を通して具体的に理解させる。	

化粧デザイン学科目群	化粧デザインと科学演習1	この科目においては、薬学や化学、生理学などの知見をもとに快適であるばかりでなく安全で安心な化粧品制作のために必要な基礎知識を学ばせる。いいかえれば、化粧材料の研究、実験、分析、合成、処方化などについて考えさせるのがこの科目の目的である。加えて、一般消費者が化粧品を使用するにあたって必要な知識は何かを考える化粧品科学リテラシーについても研究させる。	
	化粧デザインと科学演習2	この科目においては、化粧品開発にあたって必要な色彩学、香科学、顔学、さらにはデザインや技術性、官能評価に関する知見等を修得させるとともに、じっさいに化粧品の開発企画書（考案、工夫、アイデア、パッケージデザインなどを含む）を制作させたうえで、試作品の制作を行い、化粧品開発の視点からの分析と評価を行わせる。	
	化粧デザインと技術演習	この科目においては、化粧の技術に関する基本的な知識について理論的に学ぶとともに、じっさいに肌の手入れ、メイクアップ、ヘアメイク、染毛などの実技を行いながら、その効果について研究させる。加えて、化粧技術の歴史的な変遷、評価の基準、今後の可能性などについても考究させる。	
	化粧デザインと美学演習	人間にとって化粧とは何か。ヒトが人間になって以来育んできた世界各地の化粧の紹介や考察を行うなど、顔と化粧の美学に関する基本的知識の確認を行うとともに、人はなぜ化粧を行うのか、という根本的な命題について考えさせる。具体的には、化粧の呪術的、演劇的、美的、社会的等の諸側面について具体的事例をもとに考究させる。	
	化粧デザインと医学演習	化粧の原点を説明するにあたっては、文明学的あるいは社会学的な問題関心からの説明も不可欠であるが、皮膚管理の観点からの説明も重要な役割をもつ。科学が発達した現在では、薬学、病理学、医学、生理学、なかでも皮膚生理学的な観点からの研究も必要である。本科目においては、化粧を主たる研究対象とする化粧医学あるいは皮膚管理学の知識を考究させる。	
身体表象学科目群	身体表象と心理演習	身体表象学科目群では、ファッション行為や化粧デザインなど身体をよそおう行為、すなわち身体表象行為に関わる諸問題、諸課題を研究対象とするが、この科目においては、最近目覚ましい発展を遂げつつある認知科学の知見に基づき、とりわけ顔および身体認知に関わるプロセスの諸相について研究させる。	
	身体表象と解剖学演習	身体表象行為に関わる諸問題、諸課題を研究対象とするにあたっては、顔と身体に関わる解剖学的な知見の共有は不可欠である。この科目においては、人体各部の器官や組織の名称を知り、位置関係や構造を理解させるとともに、19世紀後半に精神医学と芸術活動の重なり合いの中で急速に発展をとげた美術解剖学の成果を学習し、身体内部を可視化するための諸方法について学ばせる。	
	身体表象と社会演習	この科目においては、かつては共同体の規範のもとにあった化粧や服装などの身体表象行為が、近代の消費社会形成のプロセスの中で、いかに個人の自己イメージ（アイデンティティ）形成の欲望を生み出し、同時に関連する多様な産業の発展を生み出していったかについて研究させる。方法論としては、社会史あるいは歴史社会学的な分析枠組みを用いる。	
	身体表象と福祉演習	衣服や化粧などによる「よそおい経験」は、主体の側から見れば美の経験として実感され、人々の生活の質の向上と生きる喜びへとつながっていく。このことの好例が、最近注目されているおしゃれや化粧のセラピー効果である。この科目においては、いまだ発展途上にある美容福祉について学ばせるとともに、具体的な福祉現場での経験を通してセラピーの方法論について考究させる。	

関係科目群	ファッションビジネス論	身体に直接的に介入する割合の大きい化粧・ファッション商品は親密商品とも呼ばれる。これらの商品の開発、製造、販売に関わるファッション・ビューティ産業には、先端的な工業技術と伝統的な職人的技能、そして洗練された美的感覚が求められる。この科目においてはファッションビジネスを中心に、商品開発から製造、販売に至るまでの事業展開プロセスについて学ばせるとともにブランド論について考究させる。	
	ビューティビジネス論	身体に直接的に介入する割合の大きい化粧・ファッション商品は親密商品とも呼ばれる。これらの商品の開発、製造、販売に関わるファッション・ビューティ産業には、先端的な工業技術と伝統的な職人的技能、そして洗練された美的感覚が求められる。この科目においてはビューティ（化粧と美容）ビジネスを中心に商品開発から製造、販売、および店舗展開に至るまでのビジネスプロセスについて学ばせる。	
	非営利ビジネス論	化粧セラピーなどの効果が臨床的に明らかになりつつある現在、すでに大手化粧品会社では社内に非営利法人が設立され事業化が進められている。今後、ソーシャルビジネスとして発展する可能性も高い。この科目では、非営利の事業展開の手法や地域活性化のためのマネジメントについて考究させる。	
	ボランティア活動論	東日本大震災の後に化粧セラピーや美容福祉への関心が高まり、この分野でのボランティア活動への期待も高い。しかし、施術的側面の人材養成とともに、ボランティア活動において不可欠とされる基本的知識や経験をもつ実践家が払底している。この科目においては、ボランティア活動の実践的知識を学ばせるとともに、ボランティアコーディネータの養成をめざす。	
特論科目	化粧セラピー特論	身体を覆う皮膜である皮膚は、身体とところのあり様を社会に向けて発信し、かつ他者あるいは社会の側からのメッセージを受け取る相互交流（コミュニケーション）の場でもある。化粧行為はこうした相互交流を促進することによってセラピー効果を生むことが知られているが、臨床例を増加させること、さらには脳科学的な知見を加えることが課題である。この科目においては化粧のセラピー効果についての知見を共有するとともに、実践・分析・検証の積み重ねによって研究の深化に寄与する。	
	キュレーション特論	1970年代以降、日本出身デザイナーが世界的注目され、多くの作品が創作され蓄積されてきたが、それらを知的財産として管理し将来の人材育成に役立てるための努力が希薄であった。この科目においては、ファッションや化粧デザインの分野でのアーカイヴ活動ならびキュレーション活動の意義と実際について学ばせることを通して、この分野での人材育成を行う。	
	保存修復復元特論	化粧ファッション分野での保存修復復元の作業を統率・実践できる高度な能力・技術を備えた人材が払底している。この科目においては、すでに平成16年以来、本学学芸学部被服学科（被服学専攻と化粧学専攻）が神戸ファッション美術館との間で進めてきた「学館協働事業」をさらに深化させ、種々の企画展示、催事、および収蔵品の一部の復元作業を通して、化粧ファッションの分野での保存修復復元作業を担える人材を養成する。	
	メイクアップ特論	この科目においてはメイクアップの基本的な技術を学ばせるとともに、舞台メイク、歌舞伎メイク、ファッションショーメイク、あるいは映画やテレビなどで必要とされる特殊メイクなどさまざまな分野のメイクアップ技術を詳細に検討のうえ、それらの再現や新しい技術の開発などについて実践的に研究させる。	

	ヘアデザイン特論	この科目においてはヘアメイクの基本的な技術を学ばせるとともに、さまざまな分野におけるヘアメイク技術の変遷、それらの再現、新しい技術やシルエットの開発などについて研究させる。実際の日常生活において必要とされる技術だけでなく、ファッションショーや美術館展示におけるヘアメイクの技法についても学ばせる。	
	ファッション特論	この科目の前半では、なぜ衣服を着るかという基本的な問いから始めて近代消費社会のなかでいかにしてファッション現象が発生したかを論ずる。後半では、20 世紀の代表的クリエイターの足跡を詳細にたどることで、現代ファッションがいかなる問題軸を中心に展開されてきたか、今後のファッションの方向性は何かについて考究させる。	
	パフォーマンス特論	現代社会における「よそおい行為」は、行為者である人間が、自らの身体と衣服ファッション、化粧デザイン、ヘアデザインなどを、動的な空間の中で十全に駆使し統合することによって実現される。この科目においては、人間の欲望が、身体と身体装飾を寄り代にしていかに美を実現するものかをパフォーマンスの実践を通して検証させる。	
	デジタルデザイン特論	デザイン活動は、調和のある生活環境を意識的に構築することによって人間としての物質的、精神的な諸要求の充足を目指す創造的活動である。本科目においては、デジタルとアナログの2つの観点から、美やデザインに関する知識と技術を修得し、いかに生活、産業、環境に働きかけるかを考え、生活の質を高めるための実践的想像力を養う。	
集中演習科目群	ファッション学方法論1	集中演習科目群の目的は、本専攻の他の科目群で修得した知識、感性、技術などを実践的なレベルで定着させることによって、自律した研究者、専門職業人となるための方法論を修得させることにある。社会人学生にとっては、これまで蓄積してきた経験知を学問知に転換させるための方法論科目でもある。本科目の受講者は、衣服材料学がその研究対象とする諸領域から自ら主題を発見・選択・設定し、担当の教員の指導のもとに、学内外のリソースを活用し、また実験などによる検証を通して主題別の個人研究を行い、その成果を報告書の形式にまとめて提出する。	
	ファッション学方法論2	前記、集中演習科目群の目的にそって、本科目の受講者は、衣服整理学がその研究対象とする諸領域から自ら主題を発見・選択・設定し、担当の教員の指導のもとに、学内外のリソースを活用し、また実験などによる検証を通して主題別の個人研究を行い、その成果を報告書の形式にまとめて提出する。	
	ファッション学方法論3	前記、集中演習科目群の目的にそって、本科目の受講者は、衣服構成学がその研究対象とする諸領域から自ら主題を発見・選択・設定し、担当の教員の指導のもとに、学内外のリソースを活用し、また実作実践などによる検証を通して主題別の個人研究を行い、その成果物に報告書を添えて提出する。	
	化粧デザイン学方法論1	前記、集中演習科目群の目的にそって、本科目の受講者は、化粧品の科学がその研究対象とする諸領域から自ら主題を発見・選択・設定し、担当の教員の指導のもとに、学内外のリソースを活用して実験や試作品開発等を行い、科学的に得られたその成果を主題別の個人研究としてまとめ報告書を提出する。	
	化粧デザイン学方法論2	前記、集中演習科目群の目的にそって、本科目の受講者は、化粧の医学あるいは皮膚管理学がその研究対象とする諸領域から自ら主題を発見・選択・設定し、担当の教員の指導のもとに、学内外のリソースを活用して実験や臨床経験を積み重ねつつ課題の検証を行い、その成果を主題別の個人研究としてまとめ報告書を提出する。	

	化粧デザイン学方法論3	前記、集中演習科目群の目的にそって、本科目の受講者は、化粧の心理学あるいは身体の認知科学がその研究対象とする諸領域から自ら主題を発見・選択・設定し、担当の教員の指導のもとに、学内外のリソースを活用して実験や臨床経験を積み重ねつつ課題の検証を行い、その成果を主題別の個人研究としてまとめ報告書を提出する。	
	身体表象学方法論1	前記、集中演習科目群の目的にそって、本科目の受講者は、身体表象行為に参加するファッションや化粧品などのモノを研究対象とする諸領域から自ら主題を発見・選択・設定し、担当の教員の指導のもとに、学内外のリソースを活用し、化粧ファッション商品と身体表象との関わりについて具体的に検証し、得られた成果を主題別の個人研究としてまとめ報告書を提出する。	
	身体表象学方法論2	前記、集中演習科目群の目的にそって、本科目の受講者は、身体社会学や文化経済学がその研究対象とする諸領域から自ら主題を発見・選択・設定し、担当の教員の指導のもとに、学内外のリソースを活用して、消費社会における身体表象行為や文化装置が含みもつ諸課題の検証を行い、得られた成果を主題別の個人研究としてまとめ報告書を提出する。	
	ビジネス方法論	前記、集中演習科目群の目的にそって、本科目の受講者は、本専攻の他の分野で学んだ知見を、ファッションおよびビューティビジネスの分野でいかに活用するか、活用にあたってはいかなる課題があるか等について、担当の教員の指導のもとに個別の主題を発見・選択・設定し、学内外のリソースを活用し研究した成果を報告書にまとめ提出する。	
研究指導	研究指導	(概要) 修士論文の指導にあたっては、1年次入学後速やかに指導教員2名(正指導教授1名、副指導教授1名)を選択させ、1年次より自律した研究者、専門職業人となるための基本的な方法論、ならびに論文テーマに関連する専門分野に固有の方法論を修得させるなど、論文執筆のための基礎的指導を行う。この間、資料や情報の収集なども行わせる。2年次においては早期に論文テーマの絞り込みを行わせ、随時、論文執筆の進捗を指導教授2名に報告させる一方、専攻主催の修士論文中間報告会において報告させることで専攻所属教員全員の指導を受ける機会とさせる。また、修士論文提出のほぼ2カ月前に仮提出を行わせ本提出までの期間に集中的な論文指導を行う。 (1 末廣 祥二) 繊維や糸、布の構造や特性の分析、あるいは新素材の開発などおもに衣服材料学あるいは隣接する学問領域に関連する課題を研究対象とする学生の研究指導を行う。 (2 小林 政司) おもに衣服整理学あるいは隣接する研諸領域に関心をもつ学生の論文指導を行う。衣の消費科学とも呼ばれるこれら分野においては、衣服素材とともにそれを着用する消費者の生理や心理の側面も重要なテーマとなる。 (3 藤本 純子) おもに衣服構成学あるいは隣接する研諸領域に関心をもつ学生の研究指導を行う。斬新な衣服の制作や歴史的な衣服の保存修復復元などを通じて構成学上の理論構築に資するよう指導する。 (4 高田 定樹) 化粧品科学および化粧品開発に関わる課題に関心をもつ学生の指導を行う。また、社会の動向や趣味の変容、さらには化粧のセラピー効果に至る幅広い問題関心の涵養も視野に入れた指導を行う。	

		(5 葛谷 恒彦) 化粧品や衣料品とそれらを使用あるいは着用する人の身体、とりわけ皮膚表面との間で生ずる諸課題を研究テーマとする学生の指導を行うが、身体表象に起因する心身症等の課題なども指導対象分野とする。 (6 伊豆原 月絵) 身体表象行為に参加するファッションや化粧品などのおもにモノの側面に関心をもつ学生の指導を行う。学生には、化粧ファッション商品の組成やデザインが時代の身体表象にいかなる変容を与えたか等に留意させ指導する。 (7 北山 晴一) 化粧ファッション現象のおもに行為的側面、いいかえれば身体表象と社会との関係に関心をもつ学生を指導する。また、消費社会がいかなる身体といかなる文化装置を構築し、さらには心身症を含むいかなる社会的課題を発生させてきたか等の問題関心を重視した指導を行う。 (8 加藤 道彦) 化粧ファッション行為のおもにビジネス的側面に関心をもつ学生の指導を行う。指導に際しては、化粧ファッションビジネスの特色である親密性、機能・デザイン性、そして今後期待されるその社会性等に留意させつつ指導する。	
--	--	---	--